

<http://www.womensoutdoornews.com/2017/09/shark-adventure-dive-arena/>

## Shark Adventure: A Dive Into a Shark Arena

サメとの冒険：シャークアリーナでのダイビング

この「サメとの冒険」コラムはベラの夫であるカルロスが執筆しました…

ベラと私は、それぞれ趣味には違ったアプローチで追求します。ベラの場合、とことん極め極められるアクティビティにのめり込みます。とにかくチャレンジします。私の場合は趣味において楽しさを追求します。

私はよく「カルロス、ベラが射撃の試合のために準備や練習していない時は、何をやっているの。」という質問を受けます。何をやっていいか分からない状態になるわけではないんです。ベラが射撃に費やしている間というのは、私が好きなアクティビティが出来る時間でもあるんです。その一つがスクーバダイビングです。



私はベテランダイバーです。家族でスクーバダイビングを始めて20数年が経ちます。ベラと私と二人の娘はうちのプールでインストラクターからダイビングを習いました。私はいつもベラと子供達に様々なアクティビティを紹介してきました。ベラは陸系で、スクーバダイビングはあまり好きではありませんでした。Vera is more of a land animal. She didn't care for scuba diving, and we decided not to take it up. そのうちベラは射撃関係で更に忙しくなったので、私はもっとスクーバのレッスンを受けてライセンスを取ることにしました。当時、娘のクリスティナもライセンスを取りました。それから10年ほどダイビングをやっています。娘はカリフォルニアに沿った太平洋でダイビングすることを楽しんでいますが、私は温暖で透明度の高いカリブ海の方がいいです

ね。私はグランドバハマ、グランドケイマン、ケイマンブラック島、ボラボラ島までダイビングに行きました。私は飛行機のオーナーでもあり、操縦も楽しんでます。民間機でフロリダまで行き、そこで保管している自分の飛行機を目的地まで操縦します。私はダイビングのように、アクションがたくさんあるアクティビティが好きです。熱帯の魚を見るのはとても魅力的ですね。陸にいる時とは全く違った経験が出来ます。鮮やかな色彩に囲まれて、しょっちゅう魚が顔から数インチのところまで近寄ってきます。3回、バハマのナッソーのスクエアアートコーブスにあるシャークアリーナでの冒険を大いに楽しみました。恐怖に打ち勝って何かを証明しようとダイビングした訳ではなく、単に楽しそうだなと思ったからです。最初は少し怖いとは思いましたが。ダイビングスクールで働いている人に、ダイビング中サメに噛まれた人がイルカ聞いてみました。いない、という答えでした。フリーウェイを運転するより危険度は低いんだなと思いました。事故は起こるものですが、だからと言って自分は道路を避けることはありませんね。



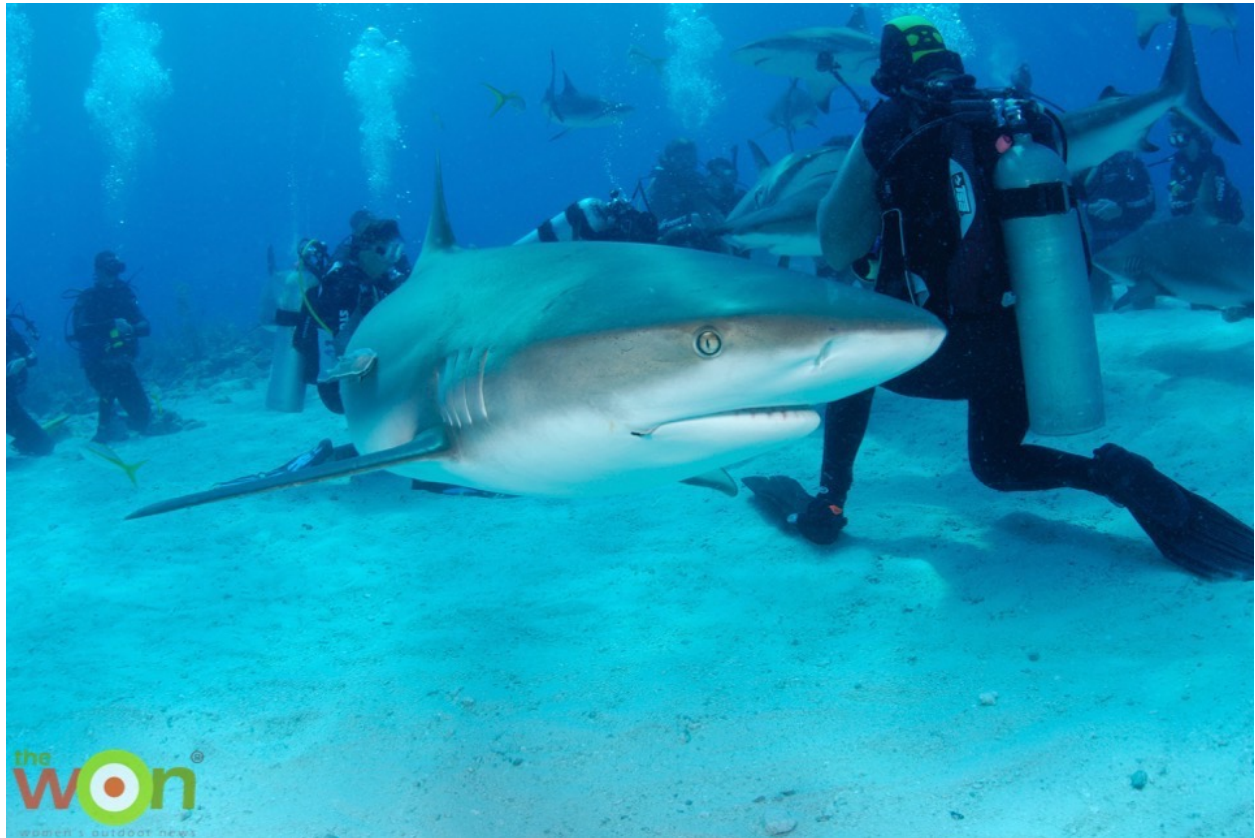
ダイバーたちは海底に案内されます。そこに石を重ねて囲われた、シャークアリーナがあります。石の隣で膝をついて見回して見ると、リーフシャークたちがいますが、まだ距離はあります。そこへ、全身チェーンの網製のボディースーツを着用した餌付けをする人が、魚の頭が入ったケースを持ってアリーナに入ってきました。餌付けの人がケースの蓋をあけると、サメたちはすぐに血のにおいを嗅ぎつけて近寄ってきました。サメたちは餌付けをするダイバーの周りを泳ぎだすすごいことになります。餌付けする時、膝をついて手は出さないように指示されます。私がこのダイブを初めて体

験した時は、体を揺らそうとも思いませんでした。私は驚きながら目を凝らしてサメたちを観察しました。サメたちは頭上や、目の前、そして周りを泳ぎます。それはすごい光景です。サメは全長6フィートくらいです。時々近くを泳いでいるサメがぶつかってきたりもします。10-15分で餌付けが終わり、餌付け係の人はアリーナから去って行き、サメたちも餌付け係を追って行きます。ダイバーたちはアリーナの壁の内側にとどまって、餌付け中に落ちたかもしれないサメの歯がないか探すように指示をされます。そのうちサメ達がいなくなり、周りが安全だという状態になった時点で、ダイブマスターがダイバー達へ水面に上がるよう指示を出します。



最後にこのダイビングに行ったのは、2016年の三月です。娘のクリスティナも一緒でした。クリスティナは私よりスキルのあるダイバーで、レスキューダイバーとナ

イトダイバーのライセンスも取得しています。彼女はカリフォルニア・モントレーの海岸辺りでのダイビングを楽しんでいます。二度彼女のダイビングについていって見ましたが、あのエリアでのダイビングはそんなに好きではないと思いました。というのも、水が冷たいし、少し濁っているのがホオジロザメにアザラシにでも間違われそうな感じもしたからです。一方クリスティナは限界のある視界と昆布が浮いている冷たい海中で冒険をすることを好みます。



クリスティナには是非シャークアリーナでダイビングの体験をさせてたかったのですが、一緒にダイビングができて楽しかったです。最近クリスティナが「本当にすごかったわ」と、当時のダイビング体験について語る時言っていました。「理論的には、望むこと全てと考えられるわ。実際、現地でインストラクターに指示をされるけど、サメ達は尾びれを揺らしながら、ダイバーに触れたり、顔からホンの数インチの距離まで近寄って来たり、かなり近くを泳いだりして。息をのんでしまうような体験、本当に息を飲むわ。」